

市町村名		南大東村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	健康診査用機材搬送事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	福祉民生課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	住民健診が安定的に実施できる環境を整えることにより定住促進を図る為、特定健診等の集団検診に使用する検診機材の海上移送船運賃及び荷役料、検査技師等の来島費を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,094	1,787	1,939	1,996	1,996
		(b) 予算現額	1,172	423	431	407	499
		(c) 増減額(b-a)	78	▲ 1,364	▲ 1,508	▲ 1,589	▲ 1,497
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		1,172	423	431	407	499
	B. 執行済額		1,172	423	431	407	499
	うち交付金充当額		937	338	345	325	398
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		検診のための検査技師等スタッフ来島渡航費の委託料は、合計498,500円(結核・肺がん検診158,800円、大腸がん検診58,800円、乳がん・子宮がん・骨粗しょう症検診280,900円)であった。胸部X線車輜は、委託している健診機関との交渉成立に至らず、沖縄県立南部医療センター(親病院)の使用許可と附属南大東診療所の協力により、診療所での利用となったため、予算削減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	1. 集団健診機材の海上輸送運賃の支援	目標	(補助の実施)	(補助の実施)	(委託の実施)	(支援の実施)	
		実績	未実施	未実施	未実施	未実施	
2. 検査技師等スタッフ来島渡航費の支援	目標	(補助の実施)	(補助の実施)	(委託の実施)	(支援の実施)		
	実績	補助の実施	補助の実施	委託の実施	支援の実施		
達成状況説明	平成25年度の住民健診予定日の10月には、台風が3回発生し、予定より1ヶ月後の健診となり、胸部レントゲン車を長期間島に置くことになったため、台風発生時期をずらすべく、4月~6月の間の日程調整を申し入れた。当該時期での実施について委託する検診医療機関と毎年交渉しているが、医療機関としては、学校健診等胸部レントゲン車に空きがないとの理由で実現に至っていない。 平成28年度には県の保健医療部に対して南大東村におけるがん検診等の問題点、課題要望書を提出しているが、問題解決に至っていない。しかしながら、平成29年8月に別の医療機関と交渉し、今年度は無理だが、次年度においては車両の移送を検討したいとの返事がもらえた。29年度については、検診車の輸送が実現するまでの期間という条件付きながら、沖縄県立南部医療センターから同病院附属の南大東診療所の使用許可と協力が得られたことから、胸部X線検診について診療所で実施することができた。 実施にあたっては、受診率アップのため住民検診と近い日程を設定し、実施した。その際、検査技師等スタッフの渡航を支援して来島していただいたことにより、各種がん検診を実施することができ、住民一人一人の健康状態を確認できた。これを受け手要再検・要精査の方には、通知により再受診を勧奨する事ができたことから、がんの早期発見、早期治療に繋がった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	集団健診受診者数	目標	()	(570人(55.1%))	(360(41.0%))	(360(41.0%))	()
		実績		523人(91.7%)	315人(87.5%)	287人(79.7%)	
	【参考指標】胸部レントゲン撮影者数	目標	()	(570人(55.1%))	(360(41.0%))	(360(41.0%))	()
		実績		431人(75.6%)	236人(65.5%)	194人(53.9%)	
	【H30成果目標】集団健診受診率の増	目標	()	()	()	()	32%以上
実績							
進捗状況説明	各種がん検診実施のための、検査技師等スタッフの派遣により、継続して実施できた。また、胸部レントゲン車の海上移送はできなかったが、胸部X線の撮影を島内の診療所で実施できた。しかし、受診者数について、成果目標に対する実績は低下し、前年比の実績としても減となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・住民健診と胸部レントゲン検診(がん検診)を同時に実施できた場合と、別日程での実施となった場合の人数に開きがあり、日程が別となることに伴って胸部レントゲン健診の受診者数が低くなっている事がわかる。 ・健診実施を委託する医療機関に対し、車両の移送による集団検診とがん検診の同時実施に向けた交渉をしているが、レントゲンを搭載した車両の不足を理由として、車両の派遣を行ってもらうことができていない。 代替として、県立病院附属南大東診療所のレントゲン機器を借用し実施しているが、土・日・祝祭日といった診療所が開いていない日でなければ利用できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胸部レントゲン検診の受診率向上には、集団検診と胸部レントゲン検診を同時に行う必要があると考えられる。 ・診療所の機器等の使用条件では、どうしても集団検診と胸部レントゲン検診を別日程で行うことになってしまうことから、同日の実施を目指し、胸部レントゲン車移送実現のため、今後も検診医療機関に要望していく。 なお、沖縄県や他市町村における検診の実施状況等について情報の収集を行い、他の医療機関と交渉したところ、平成29年度は実現できなかったものの、今後検討するとの返事をいただいた。

今後の取り組み方針

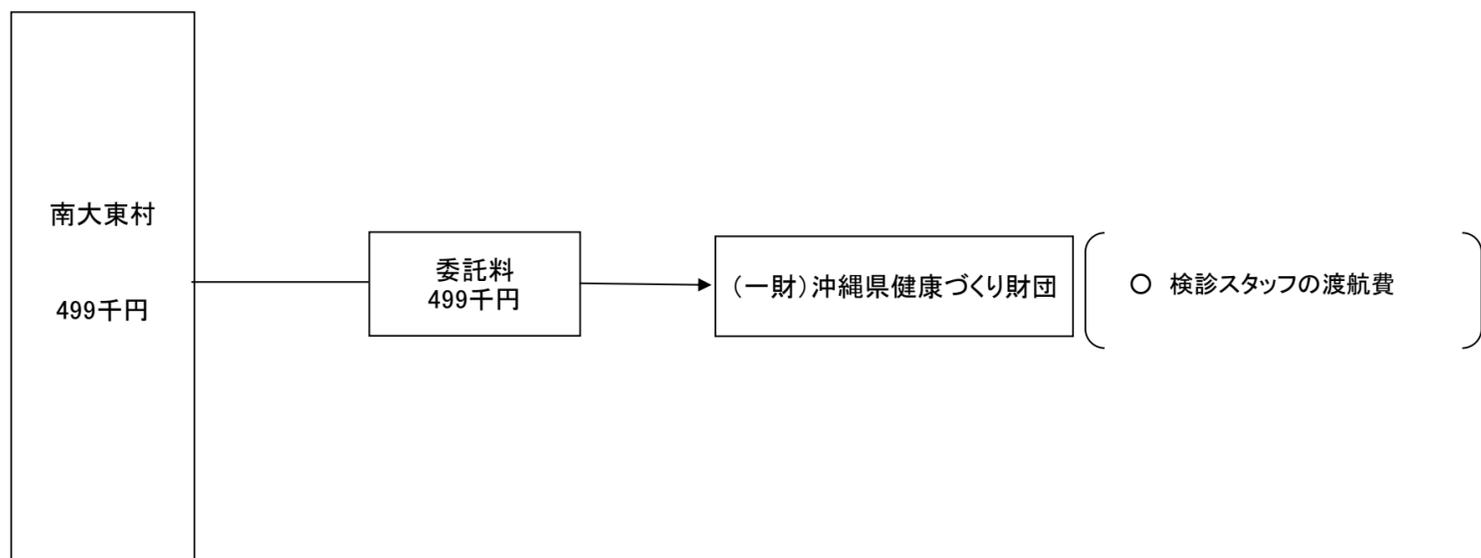
・今後、レントゲン車両と人員の派遣による集団検診と胸部レントゲン検診の同日実施を実現することで受診率アップを目指す事ができることから、車両の派遣を含めて検診を実施できるように努めていく。

・同日の検診受診の実施に向けて、従来の医療機関のみならず、その他の医療機関を含め、昨年度の交渉結果等を踏まえて、さらなる交渉の実施に努めていく。

その他、受診率の向上に向けて村民へ胸部レントゲン検診を集団検診と合わせて受診するよう働きかけを強化し、各種がんの早期発見、早期治療に繋げることに、離島ゆえに医療機関の受診が遅れがちになる不利な環境の解消に努めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
499	499	398	101	0



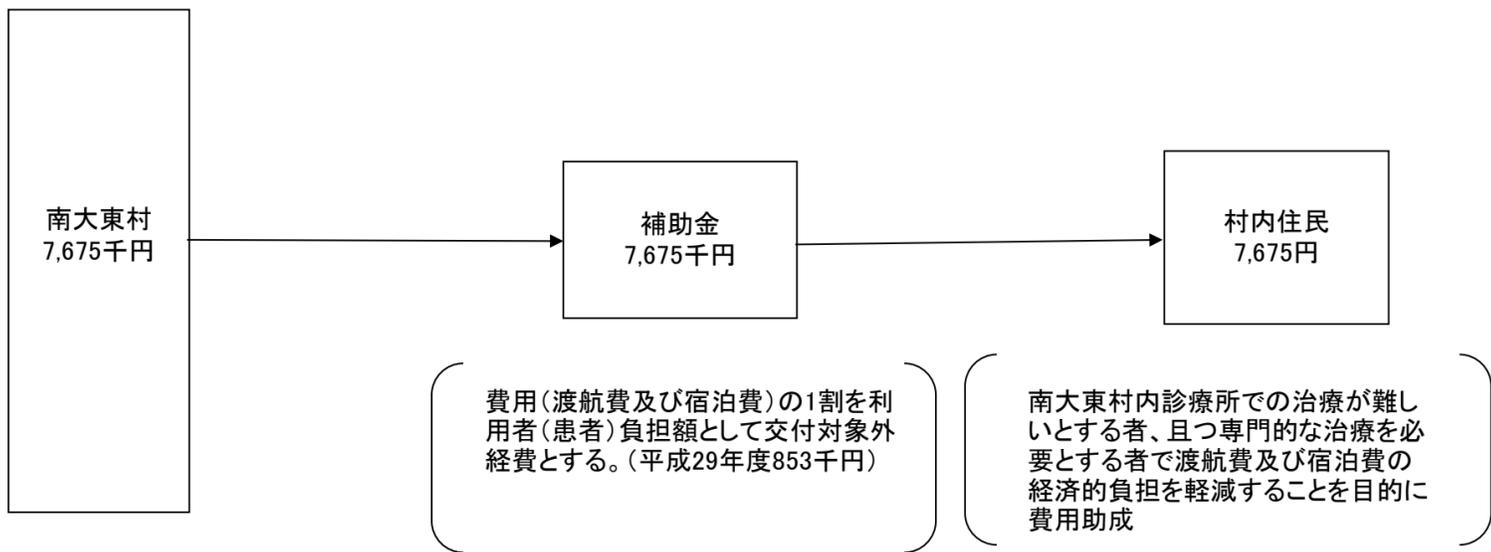
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は沖縄県で唯一離島住民の健康診査業務を担っている一般財団法人であるため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途が事業目的に即し、検査時に書類等で確認しており、真に必要なものに限定されている。

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	専門病院受診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	福祉民生課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	本村の医療機関は診療所のみとなっているため、沖縄本島で専門の治療や検査の受診を余儀なくされている住民の渡航費を支援し、住民負担を軽減することにより居住環境の改善につなげることで、離島の定住促進を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,685	4,491	5,912	5,912	5,912
		(b) 予算現額	2,913	5,809	7,068	7,791	8,054
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,772	1,318	1,156	1,879	2,142
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,913	5,809	7,068	7,791	7,675
	B. 執行済額		2,913	5,809	7,068	7,790	7,675
	うち交付金充当額		2,331	4,647	5,654	6,232	6,140
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算では210人を想定し、予算計上したが、実績では414人と大きく上回ったため、予算2,142千円を増額した。 【助成金利用者内訳】 患者355人/6,581,453円、付添人/59人1,093,621円、合計414人/7,675,074円(7,675千円) (内 急患患者 13人/147,042円、小児のみ 59人/799,465円)					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	専門病院受診渡航費助成の実施		目標 (助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
			実績 助成の実施	助成の実施	助成の実施	助成の実施	
達成状況説明	平成25年6月1日から渡航費助成事業を開始した。当初より村広報誌、住民説明会等で村民に周知した。 平成26年度から、村内診療所にて紹介状発行患者に対して、助成制度窓口宛て「紹介状発行証明書」を渡し、制度の周知をした。 平成27年度から渡航前に窓口へ「紹介状発行証明書」の提出を誘導し、必要書類の案内、及び手続方法をチラシ及び口頭案内を行った。紹介状発行証明書の提出を条件とすることで、まずは南大東診療所で受診をし、医師が島内での治療が困難と認めた方について、紹介先の医療機関と紹介先診療科を記載された証明書を診療所が発行するという流れを構築するためのものである。当該書類を患者が保健センターに提出するタイミングで、診断及び受診状況の証明書に係る様式(島外の診療機関を受診した際に専門治療先の医療機関に記載してもらう)を交付し、受診後にこれを提出してもらうことで、自己判断で島外医療施設を受診した場合など、事業の対象としない事例を対象外とするなどの判断ができる。 平成28年度は、申請の提出期間の周知を早めたことで、早期の手続き開始など、事務処理の効率向上につながり、円滑な助成ができた。 平成29年度においても引き続きこうした取り組みを行うとともに、診療所と連携し、必要書類及び手続方法の案内について、チラシ及び口頭案内を行う等によって、円滑な助成の実施につなげることができ、助成対象者の増加にも繋がった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	渡航費支援実施による離島苦の改善(渡航費支援を要望する人への支援率100%) 当初支援人数見込:200件		目標 ()	()	()	(100%)	()
			実績			100%	
	【参考指標】 支援実施件数		目標 ()	(-)	(-)	(-)	()
			実績	375件	410件	414件	
	【参考指標】 南大東診療所から島外医療機関への紹介状発行件数		目標 ()	(-)	(-)	(-)	()
		実績	284件	290件	300件		
進捗状況説明	成果目標の件数は、受診見込みの件数と付添人は、中学生以下、認知症、障害がある者等、ひとりでの移動が困難な場合等を勘案し、おおよその見込みで計上した。当初の見込みを大幅に上回ったものの、年度途中で予算の増額措置を行うことができ、支援を希望する方全員へ支援を行うことができた。 制度対象者へは、診療所または申請窓口において、直接案内できたことから支援実施件数はわずかながら増えてはいるが、ほぼ横ばいの実績である。しかし、15歳未満の受診者はH27年度20件、H28年度46件、H29年度59件と年々増加しており、制度の周知・口コミにより、対象者の利用増に繋がった。 診療所が「紹介状発行証明書」の発行を行い、保健センターへの提出という流れへと誘導することで、必要書類の案内及び手続方法をチラシ及び口頭案内することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>診療所医師の診断結果等を踏まえ、渡航しての受診が必要な方へ適切な補助を行っていく仕組みとしていることから、提出の必要な書類や添付書類が複数ある。しかしながら、申請時において診断書の記載事項不備や、添付書類の不備が生じる場合があり、交付決定手続きに時間を要する場合があります。</p>	<p>診断書の記載不備等については、これまで患者から医師に診断書が必要な旨のみが伝えられる場合があったことから、医師がどのような書式にどのような内容を記載すればよいのか、わかりやすく伝える手段を講じる必要がある。また、高齢者において書類不備が多いことから、相談の際には家族等の同伴を依頼することが、適切な申請書類の作成に繋がるものと考えられる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後も村内診療所において、渡航しての専門治療及び加療が必要と診断された患者の渡航費助成を行うことで、経済的な負担軽減により、診療治療が中断することなく、専門医療機関での継続治療を促し、健康増進に繋げる。</p> <p>制度の適正運用にあたり、診療所が紹介状を発行した事実を確認する必要があることから、提出の必要な書類については現状を維持する。その上で、診療所の医師が紹介状や診断書どのような記載を行えばいいのかわかるように、記入例やこれにそった様式、制度案内チラシなどについて、受診を考えている住民へ事前に提供することで、医師がどのような内容を記載すればよいのか等をわかりやすく伝えられる体制を構築する。</p> <p>同時に、高齢者等の書類の作成が困難な方については家族等の同行を依頼しつつ、丁寧な説明を申請前に実施していくことで、書類の不備が生じないように取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,528	7,675	6,140	1,535	853

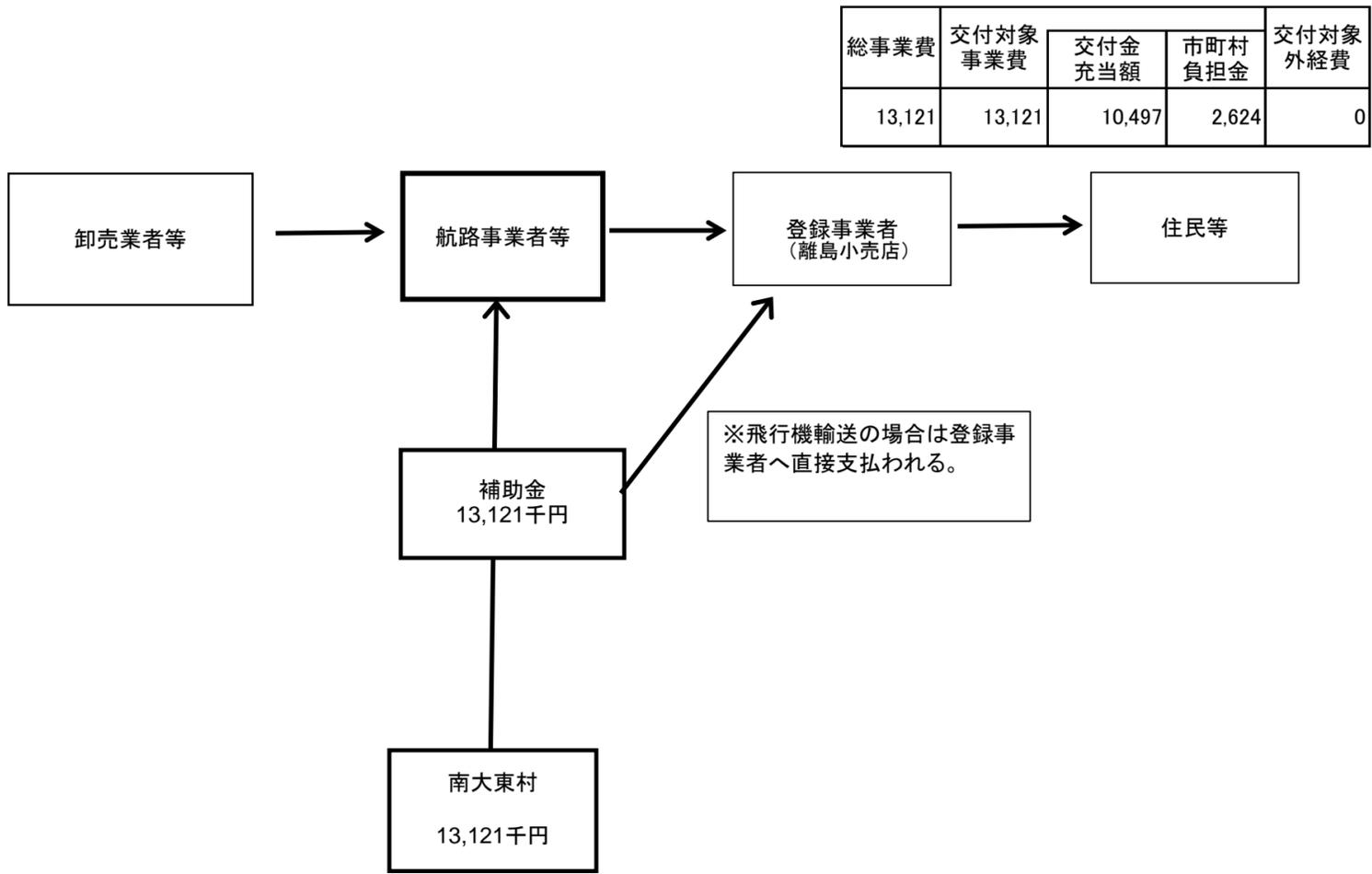


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○事業目的に沿った申請受付・審査・決定・決定通知・振込は、適正に処理されている。</p> <p>○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費用の1割を利用者自己負担とし対象外経費としている。</p> <p>○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア			
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から南大東島へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費の支援を実施している。また、南北大東島については、台風や時化による船舶の欠航時対策として飛行機輸送に対する支援も平成29年度から実施している。経費については、村・県で1/2ずつの負担となっている。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,641	14,753			
		(b) 予算現額	12,995	13,121			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,646	▲ 1,632			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	12,995	13,121			
	B. 執行済額		12,995	13,121			
	うち交付金充当額		10,395	10,497			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初は14,024千円を計上していたが、台風の影響や海上の時化により船の出港が減り、また3月末の実績報告に間に合わせるには、輸送費・作業経費の事務処理を3月16日迄の航海で集計する必要があったことから、16日以降の3航海分については補助対象外となったため予算残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	食品、衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援		目標 (支援)	(支援)	()	()	
			実績 支援実施	支援実施			
達成状況説明	商店によっては各商品を値下げするとあまりお客様の実感がわきづらいということで年数回セールを行っていた。新しく飛行機輸送が始まり必要書類の準備や支払いに時間がかかったが各店舗と協力し合うことで順調に進めることが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(23年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	・沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差(沖縄本島を100とした場合の指数)の縮小		目標 (142.5)	(価格差の縮小)	(価格差の縮小)	()	()
	※価格差は県で行っている物価調査を使用している。		実績	指数:120 22.5ポイントの価格差の縮小	指数:121.1 21.4ポイントの価格差の縮小		
	【H30成果目標】生活必需品等の価格について、沖縄本島を100とした場合の本村の指標における事業実施前と比較した縮小幅		目標 ()	()	()	()	23ポイント
	実績						
進捗状況説明	補助対象となっている店舗による商品の値引き等がみられた。商店によっては各商品を値下げするとあまりお客様の実感がわきづらいということで年数回セールを行っていた。セールの際も事業で軽減されたセールということも分かるように提示していた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは村民の補助事業の効果についての実感度が低く、住民にとって生活コストの低減効果が実感されていないという結果となっている。 飛行機輸送の際、貨物送り状の経費内訳、品名の記載漏れがあった場合には、補助対象店舗、関係業者に記載済みの送り状の提出を求める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の認知度を高め、住民の生活コストの低減効果を実感してもらうような取組を行っていく。 補助対象店舗に飛行機輸送の補助を受ける際に必要な資料および記載事項等についての周知を行うことで、記載漏れ等をなくし事務の効率化を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 各店舗へ商品の値引きシールの貼り付けを徹底するように依頼するとともに、本事業での生活コスト低減について広報のあり方を検討していく。 補助対象店舗に対し、飛行機輸送の補助を受ける際に必要な資料および記載事項等を周知するとともに、提出時には資料の記載事項を再確認してもらうように依頼し、各店舗に円滑に補助金の支払、補助額の通知が毎月出来るように努める。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○輸送経費・作業経費補助内容にそった航路事業者で支出先は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額については、天候や事務処理上の必要性から生じたものであり、事業内容に見合った適正な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

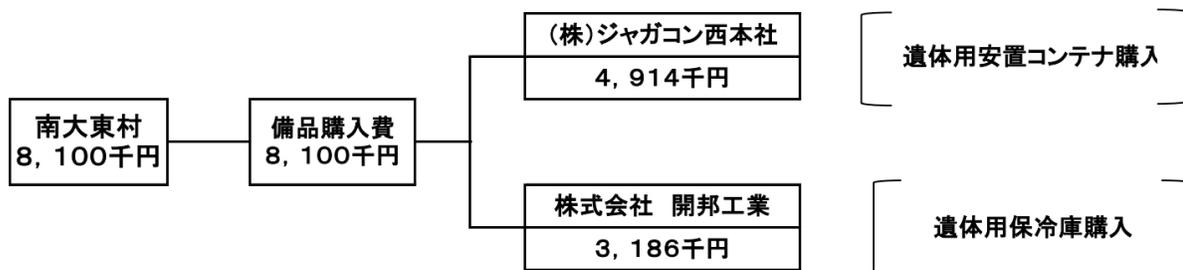
市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	南大東村遺体安置設備整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上			
担当部課名	福祉民生課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9		
事業内容	村内においての不慮の事故や孤独死など、死亡の原因が特定できない場合に検視の為、遺体を一時安置する必要がある。また遺体の保存のためには保冷庫を利用して、腐敗を防止する必要があることから、保冷庫および遺体安置所を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,270				
		(b) 予算現額	8,150				
		(c) 増減額(b-a)	880				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	8,150				
	B. 執行済額		8,100				
	うち交付金充当額		6,480				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.4%				
予算の状況の説明		保冷庫購入及びコンテナ整備費として、8,000千円を確保したが、コンテナの内装工事費730千円、保冷庫購入費150千円分の予算不足が生じた為、事業費の増額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・遺体保冷庫及びコンテナの整備	目標	(整備実施)	()	()	()	
		実績	整備実施				
達成状況説明	・遺体を安置する忌み施設である為、住民理解を得る必要があり、住宅から距離をおく形で現在の納骨堂に隣接、設置を行うこととして整備に取り組んだ。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	・遺体保冷庫及びコンテナの整備完了	目標	()	(整備完了)	()	()	()
		実績		整備完了			
	【H30年度】 一定期間安置が必要な遺体の発生時における活用率	目標	()	()	()	()	100%
		実績					
進捗状況説明	・整備については年度内に完了することができた。これにより、検視を待つご遺体はこれまで、火葬施設(住宅から遠隔の場所)に安置した上で、24時間体制で見守り、腐敗を防止するために氷で常に冷やすなどの対応が必要とされていたところ、氷の入替えの作業や老朽化した火葬施設内での安置とする必要がなくなったことから、遺族の心情への配慮や負担の軽減につながるなど、定住環境の改善に資することができるようになった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	
<p>・整備された遺体安置所は敷地の確保や交通の便等を勘案し幹線道路沿いに整備することとしたため、今後は景観上の配慮が必要である。</p> <p>近年は、建築価格の高騰で戸建て住宅を持つ人が少なくなり、村営住宅など集合住宅の入居が増えてきている。こうした中、死亡者が出た際、自宅においてお通夜を実施することや遺体を安置することが困難な状況がある。従来そのような場合や検死が必要な場合には、人里離れた墓地に隣接する、老朽化した火葬場に安置せざるをえなかったことから、家族にとっては死別の悲しみに加え、心情上および遺体の管理保存の観点からも課題となっていたところ、本施設の整備により課題の解消を図ることができた。遺体安置所が整備でき、保冷庫が設置できたことによって、遺体保存の為に作業負担についても大きく軽減され、検死を行う遺体の現状を保存する為の環境改善についても達成された。</p>	<p>・幹線道路に面した位置にある為、植栽を施すなど、施設付近を通行する人の目に直接的にふれないようにするための配慮についても検討する。</p>

今後の取り組み方針
<p>・今後景観に配慮した施設としての環境整備を図るべく、樹種の選定などを行った上で植樹するなどの取り組みを検討していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

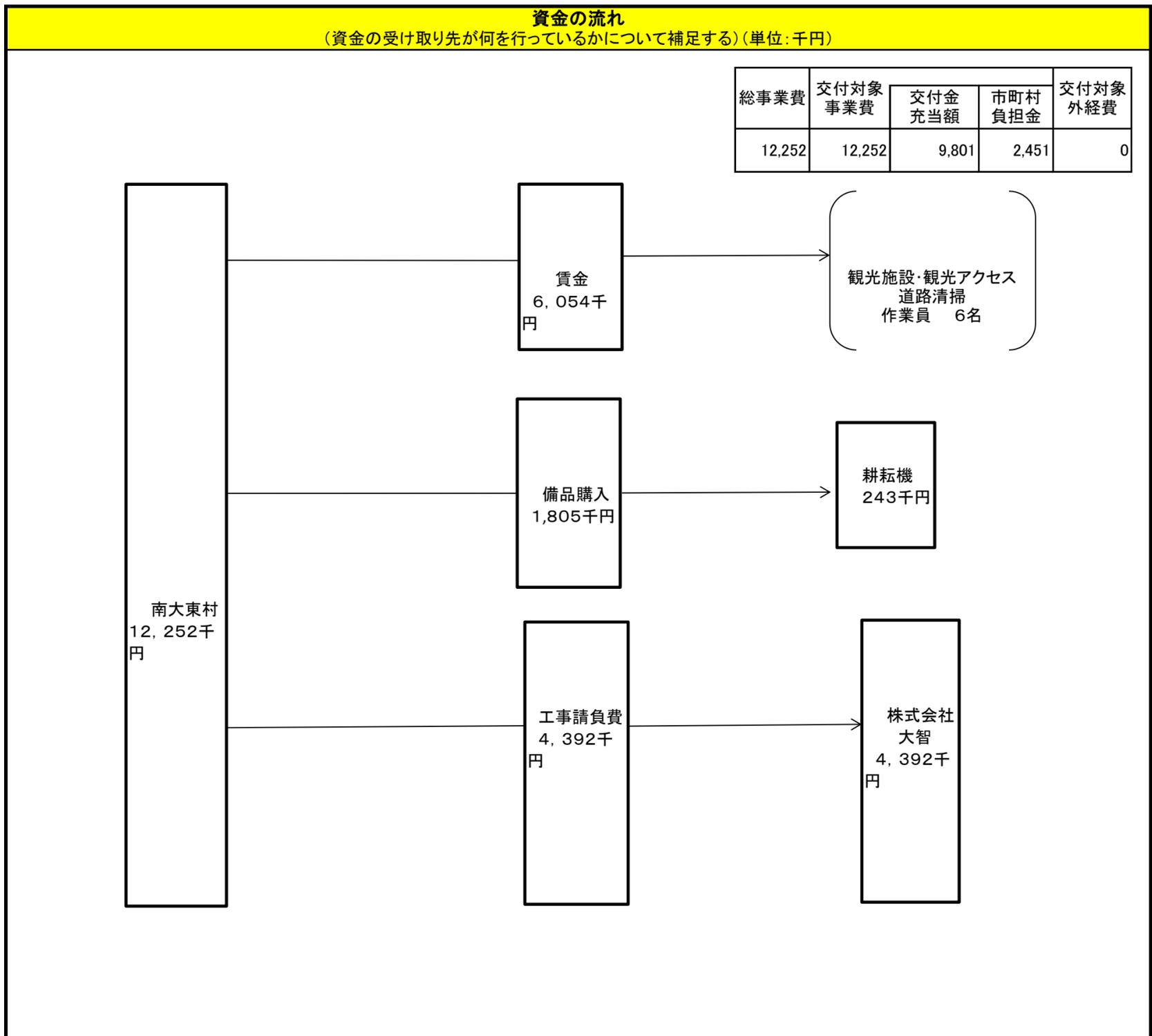
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,100	8,100	6,480	1,620	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の流れ、費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○コンテナ及び保冷庫の購入は、指名競争入札に付したので、妥当であった。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であったので、妥当であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	花いっぱいクリーン環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	観光客が訪れる観光地や施設、観光地へのアクセス道路等において植栽(花苗・花木)・美化・清掃を実施し、島内の景観向上を図る。観光地10箇所、アクセス道路2箇所						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,224	7,637	9,381	10,753	
		(b) 予算現額	2,550	5,923	8,167	12,769	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 6,674	▲ 1,714	▲ 1,214	2,016	
		(d) 繰越額	-	-		-	
		A. 計(b+d)	2,550	5,923	8,167	12,769	
	B. 執行済額		2,550	5,923	8,166	12,252	
	うち交付金充当額		2,040	4,737	6,532	9,801	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	96.0%	
予算の状況の説明		6月補正で備品購入(清掃ダンプ・耕耘機)及び賃金(2名分)を2,016千円増額した。賃金については高齢者の為、長期休暇等が発生する可能性があることから体制を見直し、2人増員し6人を雇用することとした。植栽工事及び備品購入については、ほぼ計画通り予算執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光地及び観光地へのアクセス道路の植栽・美化清掃(観光地 10箇所、アクセス道路 2箇所)		目標 (5箇所)	(5箇所)	(10箇所)	(12箇所)	
			実績 9カ所	9カ所	9カ所	12箇所	
達成状況説明		・観光地10箇所、アクセス道路2箇所の12箇所において美化清掃を実施した。 ・合わせて花いっぱいクリーン整備工事において塩屋プールアクセス道路にハイビスカスの植栽工事を実施した。清掃ダンプや耕耘機を購入し効率よく美化清掃・植栽作業が行えるようになった。 ・美化清掃活動に使用する備品を購入したことにより景観向上維持がしやすくなった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
			目標 ()	(満足度 70%以上)	()	()	()
	観光客を対象に観光地やアクセス道路について、アンケートによる美化満足度調査		実績	満足51% 普通41%			
	進捗状況説明		・29年度より成果目標について、満足度の調査の実施を行うこととして指標を変更した。 ・美化緑化されたアクセス道路が増えることにより、観光地の良い目印になり、更にたどり着くまで景観を楽しむ事も出来るため景観の向上に繋がったものと考え。アンケートにおいて不満足と回答した方が1割に満たなかったことから、期待される程度以上の景観を維持することはできているが、満足と答えた方は51%と概ね半分にとどまっていることから、さらなる景観向上に努めていく必要がある。				

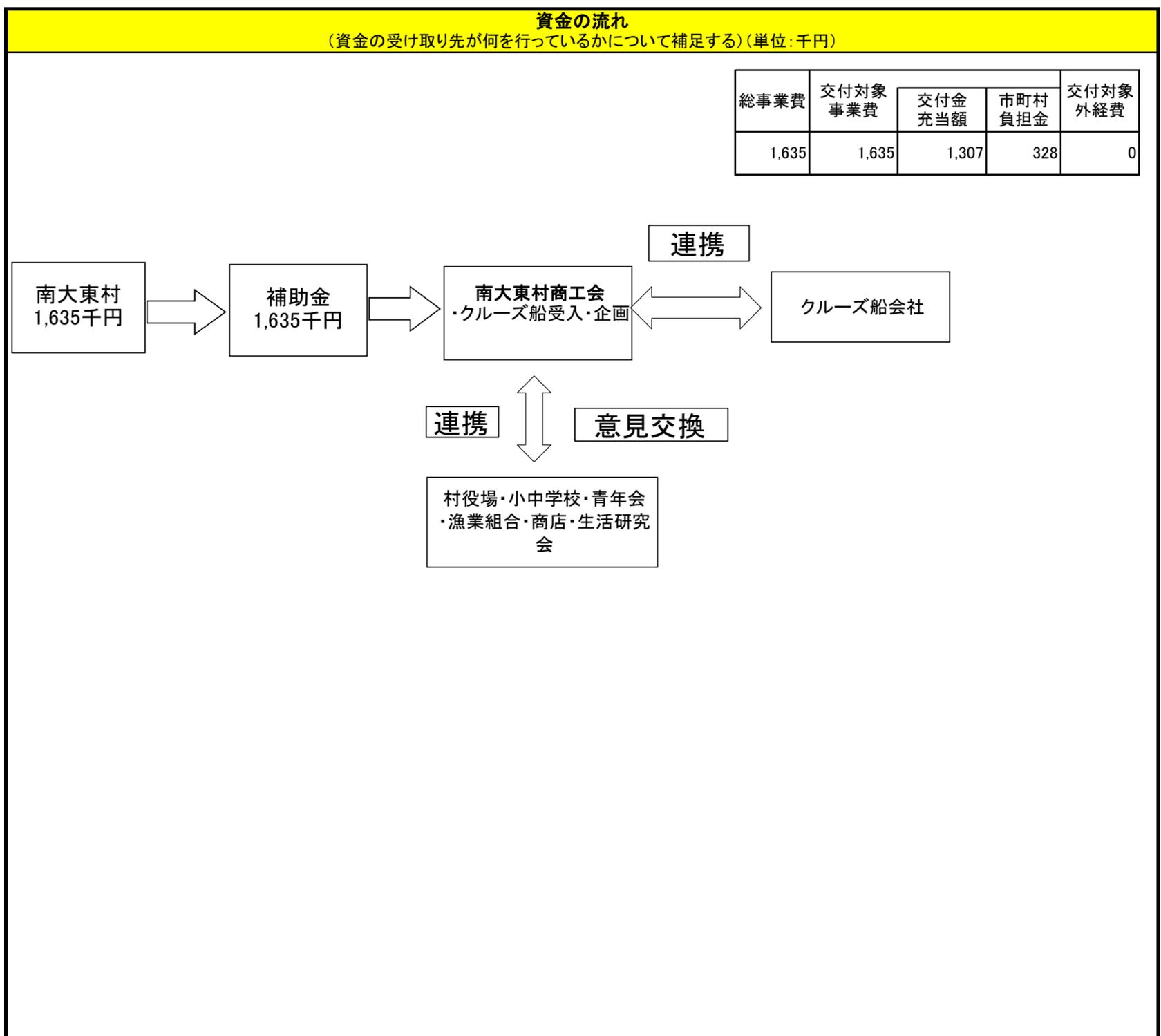
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・南大東では梅雨以外では干ばつになる傾向が多く、更に観光地・アクセス道路には水源がなく、枯死しないように花苗や花木を植栽した後において灌水作業等をしっかりと行っていく必要がある。 ・植栽した花苗が枯死した場合においては補植を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水源がない場所については、水タンクを設置するなど、容易に灌水作業が可能な環境を作っていくことが望ましい。 ・干ばつが生じ植栽した花苗が枯死する等の事態が発生した場合の対策として、すぐに植え替えに対応できるよう、苗の準備を行うなどの対応を検討することが望ましい。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ時の花苗の枯死対策として植え替えをすぐさま行うなどの対応がとれるように、苗床ハウスにおいて常に花苗や花木を作っていけるように努めるとともに、水タンクの必要箇所への設置等を検討する。 ・植栽した花苗が枯死した場合に備えて補植用の苗を準備する。また、花木の剪定や花苗を作る技術を身につけ整備している観光地・アクセス道路が年中花でいっぱいになるように努めるとともに、観光客が島に好印象を持てるよう、アクセス道路の植栽整備工事等を島の周囲全体に広げていく。 		



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は、指名競争入札で選定しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	大型クルーズ船観光魅力発信支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア			
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	特産品販売や芸能ステージの披露、また各観光スポットでのガイド設置や運行部会による観光スポットへの送迎を行うことで南大東島の情報、魅力発信につなげる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,900	1,893			
		(b) 予算現額	1,799	1,893			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 101	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	1,799	1,893			
	B. 執行済額		1,798	1,635			
	うち交付金充当額		1,438	1,307			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.9%	86.4%			
予算の状況の説明		当初1,893千円で、クルーズ船誘致を計画していたが、使用料及び人件費が予定より少なくなったため1,635千円となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	島内観光(船11隻、レンタカー15台)の実施	目標	島内観光(船11隻、レンタカー25台)	島内観光(船11隻、レンタカー15台)	()	()	
		実績	島内観光(船11隻、レンタカー25台)	島内観光(船11隻、レンタカー15台)			
	郷土芸能体験(司会1名、芸能4組)の実施	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
達成状況説明	島内観光の実施を行うにあたっては、乗客の皆様をレンタカーにより案内するとともに、船11隻による海上の巡視で、輸送時の安全面の強化に努めるとともに、クルーズ船のボートが使用できない場合等における緊急時移動手段の確保を行った。上陸日前日から風が強かったものの、沖合に停泊したクルーズ船から予定通り船舶による輸送を行うことができたため、島内観光を実施することが出来た。 郷土芸能体験にあたっては、司会の配置により会の進行をスムーズに行うことができ、島内芸能者による演芸の披露(沖縄民謡・大東太鼓)を滞りなく実施し、乗船客等に対し、島外へ島の魅力を発信することが出来、次年度以降のクルーズ船の来航につなげていく取り組みができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	来島者数:350名(乗客300名、クルー50名)	目標	(-)	(350)	(350)	()	()
		実績		360(340/20)	358(340/18)		
	【H30成果目標】クルーズ船客	目標	()	()	()	()	350人
		実績					
	進捗状況説明	乗客は当初見込みを超えて上陸してもらうことができ、島内の観光地を案内することができた。観光していただく中で、各商店においても特産品や工芸品を販売することで、島内の特産品や工芸品等についてのPRができた。乗客の上陸人数が多くなったことから、クルーの上陸人数については少ない数となったが、来島者数の目標は達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・港から歓迎会場、観光名所への移動については、レンタカーを利用して島民が案内しながらの送迎を実施したことから、観光客のアンケート結果では、63.9%の方が島民による送迎が印象に残ったと回答しており、島を挙げてのおもてなしを印象付ける大きな要素となったと考えられる。 ・ボランティアスタッフアンケートでは、年度開始、農家の繁忙期であり毎年同じ時期で行うのは厳しいと意見があった。農業等の繁忙期におけるスタッフの人員確保に限りがあることから、今後ボランティアで継続していくのは厳しいと思われる。 ・島内での移動に際しての観光客の安全面、誘導を更に強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からは島民の歓迎ぶりが非常に強い印象を与えるとともに、おもてなしのあり方について大多数の観光客が満足した結果となっていることから、引き続き効果的な受けりれに取り組んでいく。 ・年度初めの入港時期の変更ができないか検討を依頼していく必要があるが、時期をずらせない際においては、関係各位の負担を軽減できるようイベント内容の見直し等を行う。 ・より観光客の安全を確保するため、島内の観光案内ルートにおける緊急車両の設置等による改善に努めていく。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光客からの満足度が非常に高く、観光客と住民との交流の機会の創出にもなっていることから、次年度以降もクルーズ船の誘致・実施を行うことで、本村のPRに努めていく。 ・本事業により、寄港による直接的な観光収入はもちろん、観光PRによる間接的な効果も一定程度生んでいるものと考えられるが、今後取り組みを継続するにあたり、事業主体者として、村内各団体や事業者、島民等と、事業運営にあたっての負担感の軽減等をはかるべく、開催時期や実施体制、イベント内容の見直しなどを検討していく。例えば、吹奏楽部の歓迎、地域の全体清掃、道路の交通誘導、大東すし・そばの提供、集落内の案内係、運行ルート等、それぞれについて実施するかどうかの見直しを含め、実行委員会や各関係者と話し合いを重ね、負担軽減の仕組みを模索していく。 ・緊急車両については、ルート上のどこに設置するのがより効率的且つ緊急時に対応可能か等、実行委員会で検討を行う。 		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である南大東村商工会も事業費を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業費用については事業目的達成の観点から積算書類、支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	人材育成派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	「離島・へき地に教育のへき地はない」をモットーに、児童生徒には、目標を掲げさせ、目標に近づけるように日々練習に励むよう、子供達の多様な能力と心身の発達や育成を図るため、島外で開催される各種大会の派遣費を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,832	2,902	3,237	3,870	4,275
		(b) 予算現額	2,072	1,979	3,142	2,880	2,550
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,760	▲ 923	▲ 95	▲ 990	▲ 1,725
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,072	1,979	3,142	2,880	2,550
	B. 執行済額		2,072	1,979	3,142	2,880	2,549
	うち交付金充当額		1,658	1,583	2,513	2,303	2,039
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初4,275千円で予算計上したが、駅伝大会を参加者に負傷者が出たため出場を断念、またバドミントン男女及び英語ストーリーコンテストなど上位入賞を目指していたが、結果がでず派遣されなかった為、3月補正で1,725千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	児童生徒の各種大会派遣に対する支援の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	当初予定していた那地区駅伝大会の出場を参加人数不足のため、不出場。また男女バドミントンの県大会出場を目標にしていたが、上位進出が出来なかったため不参加となった事により当初見込みの支援人数に対し、支援希望者数が大幅に減ったものの、支援を希望する児童生徒全員に対して支援を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	派遣費支援実施による離島苦の改善(派遣費支援を要望する人への支援率100%) 当初見込:支援希望人数119人 実績:支援希望人数87名	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
	【H30成果目標】 派遣された児童生徒が広い視野を持てたか(保護者アンケート)	目標	()	()	()	()	80%
		実績					
進捗状況説明	当初見込まれた駅伝大会について、負傷者等により人数が不足したことから不参加となったため、当初見込んでいた人数119名から87名へ減少したが、島外への派遣希望者全員に支援を実施することができ、離島苦の改善ができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを行うことで、以下のような結果を得られるとともに、離島の子供達が経済的理由により本島の大会等へ参加困難となる状況を解消することができ、人材育成につなげるとともに、離島では経験できない多数の同年代の児童・生徒等と競技等を通しての交流を行うことができている。(英語ストーリー大会:優良賞、バドミントン(男女)大会:3回戦進出、中学校柔道:県大会出場、吹奏楽コンクール:審査員特別賞受賞、英語弁論大会:優良賞受賞、総合文化祭舞台発表の実施、吹奏楽ソロコンテスト:銀賞受賞) ・継続して人材育成に努めていくにあたり、当初参加を計画した大会へ参加可能となるよう、申請漏れや遅れ等の事務作業のミスが生じることで補助の実施が困難となる事態が生じないように継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会参加の目標を100%として、引き続き日頃からの練習や、体調管理を徹底する必要がある。 ・対象となる経費や必要な書類の提出時期等について引き続き学校側へ周知し協力を求めていくことで、円滑な事務執行につながっていくものと考えられる。

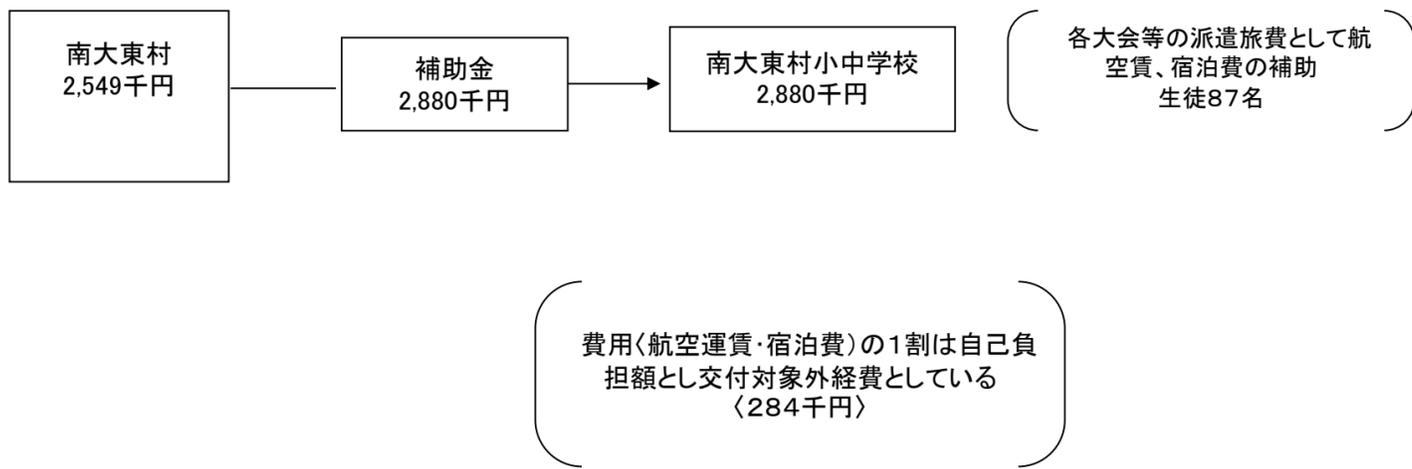
今後の取り組み方針

・今回練習中の体調不良等から参加人数不足により当初予定していた大会に出られないなどの事態があったため、日頃から自己管理を意識させていくとともに、管理者側においても体調等の把握に努め、そうした事態の防止に努める。そのため一人一人に「大会に向けての目標・日頃の練習の状況・大会結果・今後の目標」をシートにまとめさせ、日頃から自己管理意識の向上につなげるとともに、大会参加等を目標に据えて主体的に自己研鑽を行える人材として成長していくよう指導に取り組んでいく。

・事務の効率の向上に向けて、学校側と必要な書類・手続き等について周知を行い、認識の共有を継続して行っていくことで、事務の遅れや補助の実施ができない事態等の防止に努めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
2,833	2,549	2,039	510	284



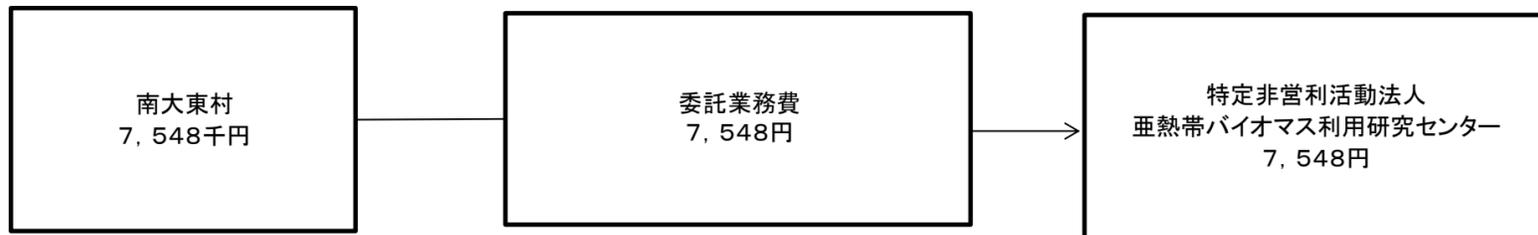
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○児童生徒・指導者の補助で妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算として計上している金額は、目標達成時の額なので妥当であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金90%、個人負担10%とし保護者負担は妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績報告書を確認しており事業目的に則した者であったと判断した。

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	南大東村高度活用プロジェクト事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成29~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 Ⅲ-9	
事業内容	<p>南大東島では、テリハボクは古くから防風林・保安林・農地防風林として植栽され台風等の風や塩害から島を守ると共に島の景観にも溶け込んでいる最も重要な樹木である。そのテリハボクが資源(オイルや薬用油)として高度活用できることが言われており島の特産品としての活用方法の調査を実施する。</p> <p>①テリハボク賦存量調査 ②テリハボク種皮オイル及び各部位の成分分析 ③テリハボク種子収集装置、④オイル事業化に向けた検討</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	(a) 当初予算額	5,000				
		(b) 予算現額	7,699				
		(c) 増減額(b-a)	2,699				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	7,699				
	B. 執行済額		7,548				
	うち交付金充当額		6,038				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.0%				
予算の状況の説明		テリハボクオイルを搾油するための搾油機試作と分析調査による委託料の増額。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・テリハボクの地域資源調査の実施		目標 (調査の実施)	()	()	()	
達成状況説明		・調査にあたっては、①国内外の文献を調査するとともに、②南大東島内におけるテリハボクに関する観察、各種測定(光合成の状況の測定、ドローンによる空撮など)を実施した。 ・また、③先進地視察として、ツバキを利用し地域振興を図っている地域(大宜味村、宮古島、五島列島)等で事例調査を行うとともに、④果実の性状(果実のサイズや質量、構造や部位別の質量など)を調査した。 ・その他、活用法の検討のため、⑤サンプリングした種子から搾油し、オイルを試験的に製造するとともに、⑥当該オイルの分析(オイルに含まれる脂肪酸の成分分析)を実施した。 ・その結果を踏まえ、⑦オイル製品(石鹸、リップクリーム、ハンドクリーム)の施策や、市場調査、パッチテスト等を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	・テリハボクの地域資源調査の完了		目標 ()	(完了)	()	()	()
			実績	完了			
	【H31成果目標】 テリハボクの種子を活用した事業を実施しうるか確認した後、すみやかに事業化につなげる。		目標 ()	()	()	()	つなげる
	進捗状況説明		・搾油に成功したことで、オイル製品化に必要な材料集めとして、オイルの成分分析、市場調査、パッチ試験等のテスト、オイル専門家や化粧品専門家への相談を実施することができ、29年度に予定していた資源調査を完了することができた。 ・今後は、29年度の結果を踏まえたさらなる調査事項として、搾油したオイルの質を改良していく試験や、実からオイルを効率よく搾油するための実験を実施していくとともに、年間を通してテリハボクの賦存量、結実量を把握するための実地調査を行っていく予定。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・テリハボクは島内の防風林として植栽されてきたため、島内全体における理論的に想定される資源量や樹木そのものの樹齢、結実量など、テリハボクの実を活用するにあたって必要な情報に係る資料について、十分に把握されてきていない。 ・花芽がつき果実が熟すまでの期間において、台風や干ばつなどの天候の影響を受けることが想定されるため、一定量のオイルを定期的に搾油していくための資源確保に向けて、テリハボクの樹勢や結実量に係る年ごとの変化を把握できるように努める必要がある。 ・オイルの製品化可能性を追求するにあたり、オイル市場の状況を把握するとともに、オイル製品を利用する顧客の視点から、どのようにすればオイル自体の付加価値を高めることができるか、検討することが必要となってくると想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の検討に向けて、把握されていない資料について収集するための実地調査を行うことで、必要なデータの補完を行っていく。 ・実ができるまでの過程や、島内全体において理論的に想定される資源量を正確に把握することに努めるほか、テリハボク林の結実を妨げないよう、枝の剪定の手法や、防風林の整備の方針を検討していく事、落果の時期に合わせて効率よく実を回収し、実の状態を選別するための仕組みづくりを行うことが、今後一定量のオイルを定期的に搾油していくためには必要であると考えられる。 ・オイルを化粧品にする場合のさまざまな試験を行い、オイルの性質を改良していくとともに、どのような顧客をターゲットとすることが望ましいか検討し、製品化後にどのようにターゲットに訴求していくかの手法を検討していく事で、製品化後の流通促進に向けた事前の想定を行っていく。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・搾油に成功したことから、次の段階として、年間を通して島内におけるテリハボクの実の資源量や結実量などを把握するため、実地調査に取り組んでいく。 ・搾油したオイルの質を改良していく試験や、実からオイルを効率よく搾油するための実験に取り組むことで、安定的な資源量確保に必要な手法等の検討を進めていく。 ・製品化後を見据えて、市場の把握等を通じて顧客となるターゲットの想定に取り組むとともに、テリハボクの島内で製造する製品に係るストーリーの検討など、ターゲットに向けて商品をPRしていくために必要な付加価値の創出方法を検討していく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,548	7,548	6,038	1,510	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○バイオマス利用に対する内外での豊富な実績があり妥当と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南大東村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	南大東村移動式大型クレーン車整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ 農林水産業の振興			
担当部課名	産業課	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9		
事業内容	南大東村では船を陸地より吊り上げ下げをして漁に出ているため、海上気象条件の急変に対応できる機動力のある大型クレーン車の導入を行い、漁家の発展と今後の水産振興を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	79,000				
		(b) 予算現額	73,764				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 5,236				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	73,764				
	B. 執行済額		73,764				
	うち交付金充当額		59,011				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		平成29年度のみ対象(単年度)不用額5,236千円については入札残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・大型クレーン車の導入	目標	(導入)	()	()	()	
		実績	導入				
進捗状況説明	大型クレーン車の導入については、計画どおり入札・契約・納品を行い、導入に向けた手続きを予定どおり進めることができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (34年度)
	・大型クレーン車の導入完了	目標	()	(導入完了)	()	()	()
		実績		導入完了			
	【H34成果目標】 平均漁獲量(H30~34) (参考:H26~28平均96t)	目標	()	()	()	()	100t/年
		実績					
	進捗状況説明	計画通りに事業を進捗させることができ、年度内の納品を受け、導入・供用開始を行うことができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>漁獲量としては、平成26～28年の平均で96tとなっているが、過去平均以上の漁獲量を目指すにあたっては、自然条件、海上気象が厳しい南大東村の漁業者が出漁機会を逃さず出漁することが重要であるため、今回導入した大型クレーンを適切に運用できる体制を構築する必要がある。</p>	<p>大型クレーンを利用して出漁する必要がある場合において、その操作を行える人がいつでも対応可能な状態とすることで、出漁機会の増加を図っていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>大型クレーンの操作が可能な資格を持つオペレーターの確保を図るとともに、島内の漁業者が出漁を希望する場合において速やかにオペレーターと連絡をとれる体制を今後とも維持していく。また、オペレーターの負担軽減を図るため、資格保有者の増加させることができないか検討していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
73,764	73,764	59,011	14,753	0

南大東村 (73,764千円)

↓

備品購入費

↓

株式会社 タダノ

↓

移動式大型クレーン納品

資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定については、当村の一組織である南大東村漁業組合であり妥当である。</p> <p>○予算規模においては、元来投資した大型クレーンの価格と乖離はなく妥当である。</p> <p>○公的資金投与、施設機器類の整備については、議会予算委員会と議会締結の承認を得て、村が現在まで負担している。</p> <p>○費用・用途の目的についても、議会予算委員会をとおり、必要なものか討議し決定している。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	